

自分らしいプレーを

リオパラ五輪 車いすラグビー出場

荒尾

乗松さん 壮行会で決意

リオデジャネイロパラリンピックのウィルチエアーラグビー(車いすラグビー)競技に日本代表として出場する荒尾市牛水の乗松聖矢さん(26)の壮行会が18日、荒尾市役所で開かれた。関係者や恩師、仲間たちから激励を受け、乗松さんは「ここまで来れたのは家族、職場などのサポートのおかげ。僕の人生に関わってくれた全ての人が僕の力になっています。市民や皆さんの期待を全て背負ってリオで自分らしいプレーを爆発させたい」と決意を話した。



壮行会で応援に囲まれ笑顔の乗松さん

乗松さんは、末梢神経のなる病気「シャルコー・マリー」で手足に力が入らなく「リー・トゥース病」による

り、12歳から車いす生活を送ってきた。平成25年から車いすラグビーをスタート。16歳から続けていた車いすツインバスケットボールの経験を生かして活躍し、26年には日本代表としてアジアパラ競技大会で優勝している。

車いすラグビーは、車いすの格闘技と称される激しい接触を伴うスポーツ。車いすごと体当たりをするなどしてボールを奪い合う。1チーム最大12人で編成され、コートに立つのは4人。障害の程度に応じ選手にポイントが与えられ、コート上の4人は合計8ポイントまで。乗松さんは1・5ポイントで持ち点の少ない「ローポインター」として体を張って相手の攻撃を防いだり、味方の攻撃をサポートする役割を担う。

壮行会には乗松さんの親族やかつて務めていた玉名郡長洲町のJMUビジネスサポート、母校の有明高専の関係者らが出席。山下慶

一郎市長が「出場は荒尾市の誇り。ベストコンディションで試合に臨み、大活躍して荒尾に凱旋し、祝勝会をできるよう期待しています」とあいさつ。小田龍雄議長も祝辞を述べ、当時の担当だった有明高専の嘉藤学准教授が「入学当時から努力家で優しい性格。日の丸を背負って厳しい経験を積んで本当にたくましくなった。リオを楽しんで」とエール。

乗松さんは「リオ出発前に皆さんと会い、力になります。遠征の時に嫌な顔一つせず送り出してくれたJMUビジネスサポート、食事や送迎など支えてくれた両親など周りのサポートのおかげで競技に集中できました。リオでメダルを取って皆さんに掛けたい」と感謝と抱負を述べた。

(牛島 亮介)